



Title	情報化社会における少数民族伝統芸能の発展と活用 : モンゴル族の口承文芸ホーリン・ウリゲルの考察
Author(s)	白, 国忠
Citation	モンゴル研究. 2024, 33, p. 30-46
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102410
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

情報化社会における少数民族伝統芸能の発展と活用

—モンゴル族の口承文芸ホーリン・ウリゲルの考察—

白 国 忠

はじめに

情報化社会の進展とデジタル技術の普及は、少数民族の伝統芸能にも影響を及ぼしている。中国のモンゴル族の口承芸術である「ホーリン・ウリゲル」は、内モンゴル東部地域で発展し、モンゴルの歴史や英雄叙事詩を語り伝える重要な文化的手段として、モンゴル族のアイデンティティや社会のつながりを支えてきた。しかし、現代ではデジタルメディアの影響を受け、伝承の形が変化しつつある。

ホーリン・ウリゲルは、後継者不足や都市化、新たな娯楽の普及といった課題にも直面している。1980年代以降、主要な演者の引退や死亡により後継者の育成が難しくなっている。また、都市生活の変化や娯楽の多様化により、公演の機会や場所が減少している。このような状況下で、ホーリン・ウリゲルは伝統を守りつつ現代社会に適応する新たな方法を模索する必要がある。

本文では、ホーリン・ウリゲルが情報化社会の中でどのように変化しているかを、演奏者と視聴者への調査をもとに分析する。TikTokなどのソーシャルメディアを活用した新たな伝承方法に関するデータを収集し、演奏者と視聴者の間に生じるギャップや矛盾を明らかにする。また、ホーリン・ウリゲルが現代のモンゴル族にとって持つ社会的・文化的な意味と、デジタル技術が伝承方法に与える影響についても考察する。

本文を通じ、ホーリン・ウリゲルが情報化社会でどのように変化し、モンゴル族の文化的アイデンティティや社会の結束にどのように寄与しているかを明らかにし、デジタルメディアを活用した新たな伝承方法が少数民族の伝統文化の継続にどう影響を及ぼしているかを検討する。

I ホーリン・ウリゲルとその背景

1. ホーリン・ウリゲルとは

(1) 概要

ホーリン・ウリゲル (ulger) は、内モンゴル東部地域における伝統的な口承叙事芸能であり、モンゴル族の歴史や文化の一部を成している。この芸能は、主に四胡を伴奏に、演者ホールチ (huurchi) が低音で語り歌う形式を持つ。物語の内容には、中国の歴代王朝にまつわる伝説やモンゴルの英雄叙事詩、さらに民謡などが含まれており、多様なテーマ性が特徴的である (王, 1995; 谢, 2008)。その起源は、チンギス・칸の時代に遡ることができ、当時のモンゴル族が『ジャンガル伝』や『チンギス・カン伝』

といった英雄史詩を四胡の伴奏と共に披露していたことに由来する(秦・特, 1999)。漢民族の移住と共に、漢族の文学作品が地域に広がり、『三国志』や『水滸伝』などがホーリン・ウリゲルに取り入れられたことは、文化の交差点としての内モンゴルの特性を反映している(スチンバト, 2011)。

(2) 起源

ホーリン・ウリゲルの起源に関する学説にはいくつかの視点が存在する。最も古く一般的な説は、12～13世紀のチンギス・カン時代にその基盤が形成されたというもので、モンゴル族の英雄叙事詩を吟じることが主要な芸能として発展したとされている(王, 1995; 謝, 2008)。特に、モンゴル族と漢人の文化のおよび政治的交流が進展した16～17世紀に、ホーリン・ウリゲルは新たな形態を取り入れ、さらに洗練されたものへと進化した(閻, 2004)。また、清朝時代における蒙漢文化の相互作用も、その発展に大きな影響を及ぼしている(秦・特, 1999)。農耕文化と遊牧文化が交差する内モンゴル地域では、漢族からの文化的影響がモンゴルの口承文学に新たな要素をもたらし、ホーリン・ウリゲルの内容と形式を多様化させた。

(3) 集成者

漢民族との文化的な融合は、ホーリン・ウリゲルの発展において重要な役割を果たした。特に、モンゴル語と漢語の文学的な結びつきを促進したダンソニマと楊鉄龍の功績は大きい。ダンソニマ(1810～1889年)は幼少期に葛根廟で学び、モンゴル語、漢語、チベット語に精通し、『三国志』や『水滸伝』などの漢族文学をモンゴル語に翻訳した(包, 2008)。これにより、ウリゲルはモンゴルの叙事詩だけでなく漢族の文学も取り入れ、多彩な芸能として発展することになった。

一方、楊鉄龍(1965年生)は遼寧省阜新モンゴル族自治州出身のウリゲルの代表的な伝承者であり、幼少期から父に四胡の演奏や説書の技術を学び、1982年より活動を開始する。1987年には地元で20万字以上の民間歌詞や祝詞を収集し、1996年にホルチン説書「一級」資格を取得する。楊の代表作『唐書五伝』は唐王朝の忠臣と奸臣の対立を描いた作品で、民族文化や神話の要素を取り入れ、その芸術性において高い評価を受けている(蒙古貞夫, 2021)。楊は全中国大会でも数々の賞を受賞し、地方や国家レベルでウリゲルの伝承とモンゴル文化の発展に貢献している。

2. 発展した背景

ホーリン・ウリゲルの発展は、清朝時代の高圧政策と羈縻政策(きびせいさく)¹⁾をはじめ、モンゴル族の英雄叙事詩、ラマ教、シャーマン教といった多様な文化的要素が複雑に絡み合いながら形成された。清朝初期には、羈縻政策が中心となり、モンゴル族、特にホルチン部との政治的同盟や婚姻関係を通じて地域の安定と文化交流を推進した。これにより、漢文化や技術がモンゴル地域に伝播し、地域発展が促進される一方で、モンゴル独自の文化的アイデンティティも保たれた。

しかし、外部の脅威や反乱への対応が求められた康熙以降、羈縻政策に高圧政策が補完的に用いられるようになり、蒙漢文化交流を制約する一面も現れた。このような背景の中で、英雄叙事詩はウリゲルの基盤を形成し、即興的な語りの形式が文化的アイデンティティの維持に寄与した。

また、ラマ教寺院は学問と芸術の中心地としてウリゲルの発展を支え、シャーマン教の音楽はその

1) 清朝の「羈縻政策」は、非漢民族地域を間接的に支配するために採用された政策で、地元の伝統的首長を利用し、中央政府の影響を保ちながら現地の自立性を一定程度認めたものである。これにより、清朝は多様な民族を含む広大な領土を効果的に統治した。

表現に多様性と即興性を加えた。20世紀にはウリゲルインゲル²⁾の設立により伝承の制度化が進み、文化大革命期の停滞を経て復興したが、現在ではデジタルメディアを活用した継承の課題が浮上している。このように、清朝の政策と文化的要素が複雑に交錯しながら、ホーリン・ウリゲルはモンゴル文化を象徴する重要な芸術形式として発展してきた。

(1) 清朝の高圧政策とモンゴル族

清朝時代におけるモンゴル族、特にホルチン地域³⁾の役割は、政治的および文化的観点から重要であった。清朝政府は北方遊牧民族を潜在的脅威と見なし、伝統的な手法に基づく高圧政策を展開した。これらの政策は蒙漢文化交流に制約を与えた一方で、モンゴル文化の一部、特にウリゲルの発展に間接的な影響を及ぼした。

モンゴル族がその広範な地域分布と文化的多様性により、清朝時代の中国社会において重要な役割を果たした。ホルチン地域はその文化的・地理的特徴から、清朝政府との関係において中心的な位置を占めた。清朝政府の政策がモンゴル文化や芸能の発展、とりわけウリゲルに与えた影響が顕著であった。また、これらの政策は蒙漢文化交流を抑制し、異文化間の相互理解を制限する一方で、地域ごとの文化的ニーズに応じた新たな文化的表現形式の発展を促進する契機ともなった。ウリゲルはその厳しい環境の中で独自の発展を遂げ、モンゴル文化の多様性と豊かさを示す重要な要素となった。(張, 2003; 曹, 2005)。

清朝時代のホルチン地域における文化的発展は、政治的措置が文化形成に及ぼす影響の複雑性を示している。こういう制約の下で、ウリゲルのような芸術形式が発展したことは、文化と政治の相互作用が文化的発展においていかに重要な役割を果たすかを示唆している。

(2) 羈縻政策とホルチン地域

清朝の「羈縻政策」は、モンゴル族、特にホルチン部との関係構築に重要な役割を果たした。この政策によると、モンゴル族と清朝の間に強固な同盟関係が築かれ、文化的交流と地域の発展が促進された。

清朝の統治者は、ホルチン部が清朝の覇業において重要な役割を果たすことを早期に認識し、彼らを同盟者として引き込むための戦略を実施した。これは、「北親不斷」⁴⁾の政策の一環として行われた。清朝の皇帝たちは、モンゴル族のホルチン部との結びつきを重視し、婚姻関係による同盟関係を築いた。これには、モンゴル王公の娘を后妃として迎えることや、清室王公家の姫をモンゴル王公の子弟と結婚させるなどの措置が含まれていた。清朝の王女がモンゴル地区に嫁ぐ際、彼女たちの一行には召使い、侍従、職人、芸能人などが同行した。こうした過程で、漢文化や技術がホルチン地区に伝播し、文化的な融合と地域の発展が促進された(閻, 2004)。

清朝の「羈縻政策」とホルチン部との関係は、政治的同盟を超えて文化交流にも寄与し、地域の多

2) ウリゲルインゲル (Ulger Inger) は、ウリゲルを保存・普及するための施設や組織を指す。

3) ホルチン地域は清朝の中頃から急速な開墾農地化の波にさらされてきたとしている。漢族の移住とともに遊牧民族であるモンゴル族の生業は遊牧から半農半牧へ変化し、集住する村落を形成した。ホルチン地域とは現在の通遼市、赤峰市、ヒンガン盟などの約21万平方キロメートルの地域を指し、約294万人のモンゴル族が暮らしていて、内モンゴルのモンゴル族人口の7割を占めている。

4) 清朝の「北親不斷」政策は、ロシアとの友好を維持し北方の安全を確保するための外交方針で、国境の定義と通商を促進する条約に基づいている。清朝とロシアはネルチンスク条約(1689年)やキャフタ条約(1727年)を締結し、両国間の国境を定めるとともに通商や使節交流を規定した。この政策により、清朝はロシアとの緊張を抑え、安定した国際関係を維持した。

様性と発展に重要な影響を与えた。この歴史的プロセスは、異なる文化間の交流が地域全体に文化的豊かさをもたらす一例として捉えられる。

(3) モンゴル族英雄叙事詩とその影響

ホーリン・ウリゲルの発展には、モンゴル族の英雄叙事詩が大きな影響を与えている。特に、モンゴル族の口承文学としての英雄叙事詩は、ホーリン・ウリゲルの主要な土台を形成し、文化的アイデンティティの維持に寄与している(烏, 1990)。これらの叙事詩は、民間伝承の一環として、決められた脚本を持たずに演者の即興的な語りで語り継がれており、その独自の形式がウリゲルの発展に大きく寄与した(薩仁, 2001)。

(4) ラマ教の影響とモンゴル文化発展

ラマ教の影響もホーリン・ウリゲルの発展に欠かせない要素である。清朝時代、ラマ教寺院は知識と芸術の中心地として機能し、多くのモンゴル族の知識人や芸術家がこの地で学んだ。寺院は経典や文献を所蔵し、学問と芸術の場を提供することで、ホーリン・ウリゲルの芸術的発展にも大きな役割を果たした(佟, 2008; 吳, 2008)。

(5) シャーマン文化の影響

シャーマン教もまた、ホーリン・ウリゲルに影響を与えた重要な文化的要素である。シャーマン教の音楽は、100以上の曲調と宗教的な要素を持ち、ホーリン・ウリゲルにおける音楽的表現の多様性と即興性を強化した(島村, 2011; ナランピリゲ, 2009)。この影響により、ウリゲルは単なる語り芸術にとどまらず、豊かな音楽性を持つ表現形式へと進化し、モンゴル文化のアイデンティティの一端を担うようになった。

(6) ウリゲルインゲルの成立と現代的課題

ウリゲルインゲルは、ウリゲルの伝承や普及を目的とした施設であり、初めての設立は1928年のウランホトに遡る(蒙古貞夫, 2021)。文化大革命の影響で一時的にその機能が停止したが、後に復興し、現在もモンゴル文化の象徴的な存在として重要な役割を果たしている。現代においては、デジタルメディアの活用など新たな戦略が必要とされており、ホーリン・ウリゲルの継承と適応が課題となっている。

II ニューホールチに関する調査

1. 調査の概要

ホーリン・ウリゲルが現代社会でどのように適応し、変化しているのかを明らかにするためには、その伝承方法や担い手に関する具体的な事例を調査することが不可欠である。特に、伝統的な方法で活動するホールチと、デジタルメディアを活用して伝承を行うニューホールチ(新世代の伝承者)の双方を比較することで、技術革新が伝統芸能に与える影響を考察する必要がある。

この目的のもと、第一回の調査では、ホーリン・ウリゲルが現代社会でどのように変化しているかを明らかにするため、ニューホールチに対するインタビューを実施した。調査では、特に現代技術が伝承方法や活動にどのような影響を与えているのかを分析した。

2. ニューホールチについての調査

2023年12月5日から2024年3月15日にかけて、SNSを活用する5人のニューホールチに対してオンラインで半構造化インタビューを実施した。この調査により、現代社会におけるホーリン・ウリゲルの伝承方法や、デジタル技術の役割が明らかとなった。代表的なインタビュー対象者である3名は、いずれもインタビュー対象者である3名は、いずれも中国の三大ショットビデオアプリを活用し、ホーリン・ウリゲルを新たな形で普及させる点で共通していた。

(1) TikTok（中国本土版）のウリゲルインフルエンサー

ホールチ A は、TikTok を主なプラットフォームとして活用し、約4.2万人のフォロワーを持つインフルエンサーとして活動している。彼は、ホーリン・ウリゲルに現代的なテーマを取り入れ、視聴者の関心を引くコンテンツを作成している。特にフォロワーの65%が25歳以下の若者で、演奏前に物語の要約や教訓を簡潔に説明し、視聴者が理解しやすい工夫をしている。また、TikTok のライブ配信を通じてモンゴル族に関連する商品や記念品を販売しており、毎月の売上は約10,000元に達している。しかし、視聴者の約40%がコンテンツの理解が難しいと感じており、今後は字幕や多言語対応が課題となっている。

ホールチ A の自作のホーリン・ウリゲルには、最近のニュースや政治的な出来事を引用し、それに対する評価も含まれている。しかし、字幕の欠如などから彼の活動はまだ十分な効果を上げていないと指摘された。この現状は、伝統芸能のデジタル化における課題を浮き彫りにしており、視覚的な補助や多言語対応が必要とされていることを示している。

ホールチ A の取り組みは、伝統文化と現代メディアの融合の好例である。彼は若い世代がアクセスしやすく、理解しやすい形でホーリン・ウリゲルを再解釈し、普及に努めている。これは、伝統文化を現代社会に適応させる革新的な方法を示しており、TikTok を通じたホーリン・ウリゲルの伝承は、若い世代への文化的影響力を拡大する可能性がある。伝統と現代の融合を通じ、ホーリン・ウリゲルの伝統的要素を維持しつつ、現代的な解釈を加えることで、より広い聴衆に訴えることができるようになっていく。

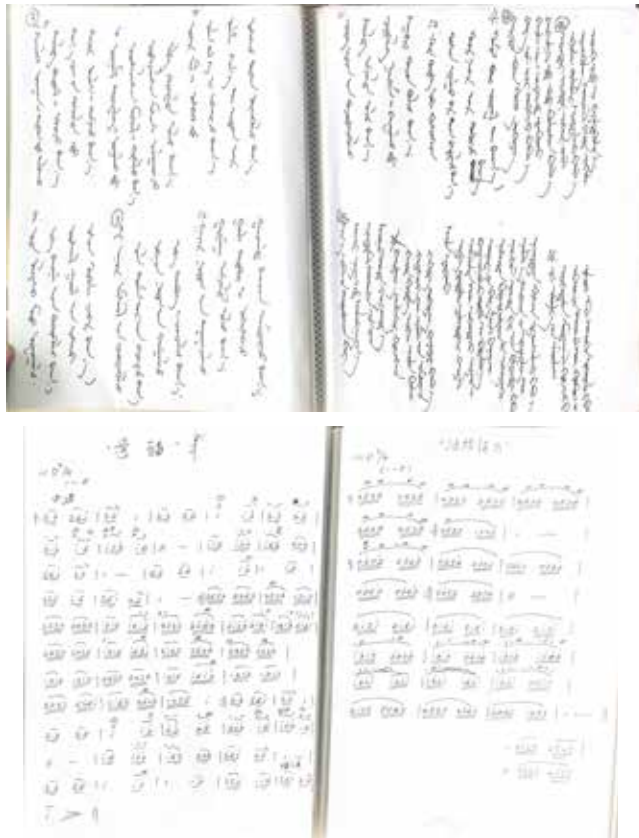
(2) 快手⁵⁾ のホーリン・ウリゲル先生

ホルチン芸術職業学院でウリゲルを教えるホールチ B は、快手を活用してホーリン・ウリゲルの教育普及に努めている。彼は500時間にわたる『紅樓夢』をテーマにした録音作品を制作し、モンゴル文化と中国文化の融合を象徴するコンテンツとして発信している。彼の作品は再生回数が15万回を超え、快手におけるモンゴル文化関連コンテンツとしてトップクラスの人気を誇る。

ホールチ B の教育プログラムには30人の学生が参加しており、快手での教育動画は毎回500回以上再生されている。デジタルプラットフォームを教育ツールとして活用することで、若い世代への伝承が着実に進んでいる。彼の教育プログラムは、伝統的なホールチ技法に加えて音楽知識や技術を取り入れたカリキュラムに基づいており、伝統と現代の思想を織り交ぜた教材の編集にも携わっている。こうして彼は、文化的アイデンティティを維持しつつ、伝統芸術を現代的に解釈するバランスを保ちながら教育を行っている。授業は週に2～3回、長時間にわたり行われ、現在7人の学生が登録している。入学には中学または高校卒業程度の学歴とモンゴル語の基礎知識が必要である。

5) 快手は、中国を拠点とする短編動画共有プラットフォームであり、特に地方部の利用者に支持されている。

写真1 ホールチ B が編集したテキスト(上)と楽譜(下)



ホールチ B の教育は、モンゴル族と漢民族の歴史、文芸手法、詩の作成、四胡の演奏など、多岐にわたる専門技術を学生に教えることで、ホーリン・ウリゲルの伝統を守りつつ、現代文化との融合を目指している。また、ヒンガン盟の布仁巴雅爾派の喉歌など、さまざまなホーリン・ウリゲル流派の特徴を取り入れ、より広い視野でホーリン・ウリゲルの可能性を追求している。各流派はそれぞれ独自の音楽的特徴や文化的背景を持っており、彼はそれらを教育に取り入れることで、ホーリン・ウリゲルの枠を超えた創造的な発展を促進している。

このように、ホールチ B は厳格なプログラムを通じてホーリン・ウリゲルの継承者を育成し、学生たちに文化的アイデンティティと技術的スキルの両方を伝えている。また、彼はホーリン・ウリゲルの現代化と国際化を視野に入れた教育を推進している。

(3) WeChat のプロデューサー

ホールチ C は、伝統的なホーリン・ウリゲルの演奏技法と現代のビジュアルアートやマルチメディア技術を組み合わせ、新たな視聴者層にホーリン・ウリゲルを紹介している若手演奏者である。彼は特に WeChat のショートビデオプラットフォームを活用し、伝統的な内容に現代的な要素を融合させることで、若年層にホーリン・ウリゲルの魅力を伝えることを試みている。他のアカウントが直面する厳しい言語審査に対して、比較的自由的な表現が許されている点で特徴的である。

また、彼は伝統芸能にとどまらず、現代のニュースや震災や水災で活躍した英雄などの社会的なテーマを取り入れ、文化の持続可能性を追求している。このアプローチにより、彼の演奏は新たな視点を得て、現代の観客にも共感を呼んでいる。たとえば、彼の WeChat ビデオは2023年に再生回数が累計で50万回を超え、特に18歳から30歳の若年層に人気があることが判明している。

3. ニューホールチについての分析と結論

(1) 分析

ニューホールチ三人の活動を総括すると、彼らはいずれもデジタルメディアを用いてホーリン・ウリゲルを新たな形で普及させ、現代社会に適応させる試みをしている。ホールチ A は、TikTok を通じて伝統文化に現代的なテーマを織り交ぜつつ、商品販売などの商業的要素を加えたコンテンツを制作しており、伝統と商業活動の融合を推進している。一方、彼のコンテンツが一部の視聴者にとって理解が難しいという課題は、伝統文化の本質を保持しながら、デジタル技術を効果的に活用するバランスの難しさを示している。

ホールチ B の活動は、快手を利用した教育を軸に展開しており、ホーリン・ウリゲルの伝統技法を体系的に若者へ継承している点で、教育を通じた持続的な伝承の重要性が浮かび上がる。彼の録音作品やカリキュラムは、モンゴル文化と中国文化の融合を象徴しており、単なる技術的な伝承に留まらず、文化的な意味や価値を次世代に伝える役割を果たしている。ただし、デジタルプラットフォームを活用しているものの、その範囲が教育という枠組みに限定されているため、より広範な視聴者へのアクセスや影響力という面での限界も存在している。

ホールチ C は、WeChat を通じて社会的な問題をホーリン・ウリゲルに取り入れるという新しい手法を取っており、特に若年層に向けて伝統文化を現代の文脈で再解釈している。彼の活動は、伝統文化が現代社会の中で再定義され、どのように新しい意味を持つのかを探索するものである。特に、自由度の高い表現が可能な WeChat を選んだことで、他のプラットフォームでは実現しにくい社会的メッセージを伝統芸能に織り込むことが可能になっている。しかし、社会問題と伝統文化の結びつきが強調される一方で、伝統的な価値観や文化的背景が相対化されるリスクも存在している。

(2) 結論

ニューホールチ3人の活動から、デジタルメディアを活用した伝統文化の現代化と継承には新たな可能性と課題があることが明らかになった。彼らはそれぞれ異なる方法でホーリン・ウリゲルを広め、若い世代やデジタル世代に伝統文化への関心を引きつけている。しかし、伝統の本質や価値をどの程度保ちながら、現代の技術や社会に適応させるかという問題も浮上している。デジタルメディアは視聴者との距離を縮める一方で、伝統の意義が薄れたり、消費されるだけのものになってしまうリスクもある。

特にホールチ A の活動は、商業活動と伝統文化の融合によって新たな収益の可能性を生む一方で、伝統の精神性や背景が軽視される危険も伴う。また、ホールチ B の教育的アプローチは、伝統技術の保存と伝承において重要だが、現代技術を使った拡大の余地がある。一方、ホールチ C が社会問題を取り入れた試みは、伝統芸能に新しい意味を与えるものであり、伝統と現代の融合の可能性を示しているが、伝統の根本的な価値をどこまで保てるかについては慎重な検討が必要だ。

今後は、伝統文化の大切な部分を守りつつ、デジタル技術を活用して現代社会に適応させることが

大きな課題となる。ニューホールチの活動は、伝統文化が単に過去の遺産として保存されるのではなく、現代の技術や社会で再解釈され、生きた文化として次世代に引き継がれるための新しいモデルを示している。このプロセスの中で、文化的なアイデンティティや社会的な役割がどのように変わり、どのように伝承されるのかを探ることが、伝統文化の持続的な発展に向けた鍵となるだろう。

III 伝統的なホールチに関する調査

1. 調査の概要

第二回の調査では、52歳のホールチDと53歳のホールチEの2名の伝統的なホールチにインタビューを行い、現代社会におけるホーリン・ウリゲルの演奏や継承についての見解を探った。彼らは長年ホーリン・ウリゲルを演奏してきたが、これを本業とはせず、結婚式や祭りなどの機会に余暇を利用して伝統的な形で演奏している。彼らはスマートフォンやニューメディアを使わず、従来の方法を守りながら活動を続けている。

彼らの見解は、現代化が進む中で、ホーリン・ウリゲルの持続可能性や、伝統をどのように守り伝えていくかという点で重要な洞察を提供している。以下は、彼らとのインタビューから得られた内容をまとめたものである。

2. 伝統的なホールチについての調査

(1) ホールチDの見解

ホールチDは、幼少期からラマ教を信仰する父親の影響で、ホーリン・ウリゲルに親しんできた。彼は仏教文献やモンゴル族の英雄叙事詩、さらには『隋唐演義』といった漢族の歴史物語にも触れており、これらを基盤に伝統的なホーリン・ウリゲルを演奏している。しかし、ホールチDはモンゴル語教育の衰退に深い懸念を示しており、経済発展や社会の効率化の中でモンゴル語教育が減少し、漢語中心の教育が普及している現状が、伝統文化の継承において大きな障壁となっていると指摘する。特に、若者がモンゴル語を話せない現状が、ホーリン・ウリゲルの正確な伝承を難しくしていると述べている。

(2) ホールチEの見解

ホールチEは、幼少期から足に障害を抱えていたため、肉体労働が困難であったことから、村の師匠からホーリン・ウリゲルを学び、生計を立ててきた。彼の見解によれば、交通の発展がホールチの移動を容易にし、文化活動の普及に寄与している一方で、長編の英雄叙事詩をモンゴル語で語るホールチが減少している現状を憂いている。ホールチEは、伝統的なホールチが現代社会においてその演奏形態や役割を変化させていることを指摘しており、かつての吟遊詩人のように広範囲を巡る活動が減少し、地域密着型の文化活動へとシフトしていると述べている。

3. 伝統的なホールチについての分析と結論

(1) ホールチDの分析

ホールチDは、モンゴル語の衰退がホーリン・ウリゲルの継承に深刻な影響を与えていると指摘している。モンゴル語はホーリン・ウリゲルを伝えるうえで重要であり、その言葉を通じて伝わる文化

的な価値や物語が正確に次世代に伝わる必要があると考えている。ホールチ D は、モンゴル語教育の減少と、若者がモンゴル語を話せなくなっている現状を強く懸念している。この状況は、文化的アイデンティティの弱体化につながる可能性があるため、言語と文化のつながりを考えるうえで重要な示唆を与えている。

ホールチ D の経験からは、モンゴル語教育の強化がホーリン・ウリゲルをはじめとする伝統文化の継承に不可欠であることがわかる。また、教育政策において、言語と文化の保護がどのように位置づけられるかが、伝統芸能の未来に大きく関わることが示されている。さらに、現代の経済発展と効率化が伝統文化の保護に影響を及ぼしている現状も指摘され、文化の保存と現代社会のバランスが課題となっている。

(2) ホールチ E の分析

ホールチ E は、現代社会の技術的・社会的変化がホールチの活動に与える影響に注目している。交通の発展がホールチの移動を容易にし、文化活動の広がり貢献している一方で、モンゴル語による長編の英雄叙事詩を語るホールチが減少していることを懸念している。これは、ホーリン・ウリゲルの内容が短縮され、伝統的な長編の物語が失われつつあることを示しており、伝統の簡略化が進んでいる可能性がある。

ホールチ E の指摘からは、伝統文化が現代社会に適応する中で変わりつつある一方で、伝統的な形を維持するのが難しくなっている現実が浮き彫りになる。文化活動が広く普及するという前向きな側面もあるが、伝統的な物語や演奏形式が失われるリスクも存在する。文化の多様化と伝統の持続を両立させる方法が、今後のホールチ活動における重要な課題となっている。

(3) 結論

ホールチ D とホールチ E の意見を総合すると、ホールチが直面している主な課題はモンゴル語教育の衰退と伝統文化の簡略化である。ホールチ D は、モンゴル語が文化的アイデンティティの維持に不可欠であり、言語教育の強化がホーリン・ウリゲルの継承につながると考えている。一方、ホールチ E は、交通や技術の進歩が文化活動の広がり寄与するものの、長編叙事詩の演奏が減少していることを懸念している。

これらの分析から、ホーリン・ウリゲルの未来にとって大切なのは、伝統の重要な要素を守りながら、現代社会に適応する方法を見つけることだといえる。モンゴル語教育を充実させ、文化の根本を保ちながらも、デジタル技術や交通の発展を活用して、新しい伝承方法を模索することが必要である。文化の多様性を促進しつつ、伝統の本質を失わないようにすることが、ホールチ活動の継続にとって重要となる。

4. ニューホールチと伝統的ホールチの比較

ニューホールチと伝統的ホールチはいずれもホーリン・ウリゲルの継承において重要な役割を担っているが、その方法は大きく異なる。ニューホールチはデジタル技術を積極的に使い、幅広い視聴者に伝統文化を紹介している。特に SNS や動画プラットフォームを活用することで、若年層に対して伝統を広めやすい点が強みである。しかし、技術に依存することで伝統の深い価値が失われるリスクもある。

一方、伝統的ホールチは、文化の本質や言語の維持を重視し、直接的な口承で伝承することにこだ

わっているが、デジタル化に対応していないため、若い世代へのアプローチが難しい状況にある。このため、現代社会での普及力に限界があり、伝統文化の持続可能性については課題が残っている。

今後の課題は、ニューホールチと伝統的ホールチの取り組みをどのように共存させ、互いに補完し合うかである。ニューホールチはデジタル技術を活用しながらも、伝統の大切な価値を守る工夫が必要であり、伝統的ホールチは若い世代との接点を増やし、現代社会に適応した新しい伝承の形を模索する必要がある。

さらに、両者が協力することで、デジタルメディアを使いつつも伝統の本質を損なわない伝承が可能になるだろう。ニューホールチの広い視聴者層と、伝統的ホールチの深い文化的知識や技法を結びつけることで、ホーリン・ウリゲルはより持続的で多様な発展を遂げる可能性がある。今後はデジタル技術と伝統の融合を探り、両者が互いに補完し合いながら、ホーリン・ウリゲルの継承と発展を進めることが求められる。

IV 視聴者に関する調査

1. 調査の概要

2023年12月15日から24日にかけて、WeChatのグループ⁶⁾機能を活用し、中国内モンゴル自治区通遼市および遼寧省阜新モンゴル族自治州に住むモンゴル族の視聴者10名を対象にオンラインインタビューを実施した。調査では、年齢、性別、学歴、職業、居住地、ホーリン・ウリゲルの視聴歴といった基本情報に加え、ホーリン・ウリゲルの意義や将来への期待についても質問し、回答を整理した。インフォーマントは任意抽出で選び、インタビューは漢語で行ったため、日本語表記は筆者が適切と判断した表現を用いている。

ただし、今回の調査は対象者が10名に限られており、得られた結果は地域全体や多様な層を十分に代表するものとは言えない。また、若年層や都市部の視聴者に関するデータが不足している点も課題である。今後は、これらの層を含むさらなる調査を行い、多様な視点を取り入れる必要がある。本調査はホーリン・ウリゲルの継承と発展について、視聴者側からの意見を初期的な知見として位置づけるものである。

6) WeChat(微信)は中国で最も広く使われているソーシャルメディアアプリで、普及率が非常に高い。2023年6月時点で、WeChatの月間アクティブユーザー数は13.27億人に達していて、中国のモバイルインターネットユーザー数(12.32億人)を上回っている。

表1 視聴者に対するインタビューの整理

番号	年齢	性別	学歴	職業	視聴経歴	ウリゲルの意義	アドバイス	民族構成と 言語状況	次世代の 言語教育
1	45	男性	中学校	商人	30年間ウリゲルを見てきた。子供の頃から家族と一緒に見て、商売の合間にも楽しんでいる。	文化と伝統の象徴。商売をする上での精神的な支え。	デジタルメディアを活用して広い視聴者に届けるべき。現代的なテーマを取り入れることが重要。	純モンゴル族家庭。モンゴル語。	子どもは漢語教育を受けている。
2	38	女性	小学校	農民	22年間、農作業の合間にウリゲルを見て息抜きをしている。特に収穫後の冬の夜長には重宝している。	家族を一つにする絆。自然との調和や生活の知恵が詰まっている。	伝統的なウリゲルを守りつつ、農村地域の学校やコミュニティでのウリゲルの場所を増やすべき。	純モンゴル族家庭。モンゴル語。	モンゴル語教育を継続。
3	65	男性	小学校	農民	43年間、生活の一部としてウリゲルを見てきた。農閑期は特に時間を取って楽しんでいる。	過去への懐かしさと、先祖からの教えを感じさせるもの。歴史と伝統の継承。	年配の視聴者も取り込むために、伝統的な表現方法を保ちつつ、内容の多様化を図るべき。	純モンゴル族家庭。モンゴル語。	子どもは漢語教育を受けている。
4	75	女性	中学校	定年	58年間、ウリゲルは私の生活に彩りを加えてくれました。若い頃からの情熱が今も続いている。	人生の智慧と教訓が込められている。定年後の時間を豊かにしてくれる文化的な娯楽。	ウリゲルの物語を書籍やオーディオブックで保存し、アクセスしやすくするべき。	純モンゴル族家庭。モンゴル語。	モンゴル語教育を継続。
5	54	男性	大学	公務員	28年間、公私ともにウリゲルの価値を認め、推奨してきた。多くの公式な場でも取り上げられている。	社会的な教育ツールとして優れている。伝統を守りつつ、現代にも適用可能な普遍的価値を伝える。	国際的な文化交流を通じてウリゲルを紹介し、他文化とのコラボレーションを図るべき。	純モンゴル族家庭。モンゴル語。	子どもは漢語教育を受けている。
6	53	男性	中学校	農民	32年間、農業の合間に心の安らぎを求めてウリゲルを見てきた。	自然との調和と共生の教えが含まれており、農民にとってはガイダンスのようなもの。	地域ごとのウリゲルのイベントを開催し、地域コミュニティ内での意識と関心を高めることが重要。	純モンゴル族家庭。モンゴル語。	モンゴル語教育を継続。
7	48	男性	中学校	商人	17年間、ビジネスのアイデアやインスピレーションをウリゲルから得ている。	文化的アイデンティティを確立する手段。商売の成功にも精神的な豊かさにも貢献している。	若い起業家やホールチと連携し、ウリゲルに新しいビジネスや芸術の形を取り入れるべき。	蒙漢民族家庭。モンゴル語と漢言語。	子どもは漢語教育を受けている。
8	44	女性	大学	医師	29年間、医学の勉強や仕事の合間にウリゲルを通して心を癒している。	人間としての感情や思いやり、慈悲の重要性を教えてくれるメディア。	健康や福祉のテーマを取り入れたウリゲルを作成し、視聴者に有益な情報を提供することも考えられる。	蒙漢民族家庭。モンゴル語と漢言語。	子どもは漢語教育を受けている。
9	51	男性	小学校	料理人	31年間、料理のインスピレーションをウリゲルから得ている。特に伝統料理に関するエピソードが好き。	文化的な食文化を保存し、次世代へと伝える役割を果たしている。共感と教育を兼ね備えている。	料理とウリゲルを組み合わせたイベントを開催し、食文化を通じてウリゲルの魅力を伝えることができる。	蒙漢民族家庭。モンゴル語と漢言語。	子どもは漢語教育を受けている。
10	62	男性	中学校	警察官	47年間、法の執行者としての厳しい日々の中で、ウリゲルは心のオアシスとなっている。	秩序と倫理を重んじる教訓が多く含まれている。社会の安定と正義の重要性を象徴している。	社会的な課題を取り上げることで、ウリゲルを通じた教育的な役割を強化し、広い視聴者層にアプローチすべき。	蒙漢民族家庭。モンゴル語と漢言語。	子どもは漢語教育を受けている。

2. 調査からの分析

(1) 家庭の民族構成と言語使用

調査対象者10名の家庭構成を確認すると、ほとんどが純モンゴル族家庭であり、日常的にモンゴル語が使用されている。一部の家庭ではモンゴル族と漢民族の混合で、モンゴル語と漢語が併用されている。この状況は、多民族が共存する環境で日常生活における言語の多様性を反映し、モンゴル族のアイデンティティの一部として言語が大切にされていることを示している。

(2) 次世代の教育

次世代の教育については、調査対象者の半数以上が子どもに漢語での教育を受けさせている。これは、経済的な理由や漢語の社会的有用性を背景としており、将来の進学や就職を考慮した選択であると推測される。一方、モンゴル語教育を継続している家庭もあり、モンゴル語の文化的価値やアイデンティティの保持を重視する姿勢が見られる。このように、次世代の教育における言語選択には、現代社会への適応と伝統の継承が混在している。

(3) 視聴者の年齢とホーリン・ウリゲルに対する意識

ホーリン・ウリゲルが中高年層にとって生活の一部であり、懐かしさや家族とのつながりを感じさせる重要な存在であると考えられる。また、高齢視聴者にとってホーリン・ウリゲルは、過去の思い出や先祖からの教えを思い起こさせるものであり、懐古的な要素が強く支持されていることがうかがえる。

(4) ホーリン・ウリゲルの意義と視聴者のニーズ

視聴者にとって、ホーリン・ウリゲルは文化的アイデンティティの確認、精神的支え、教育的な役割など多面的な意義を持つ。特に、農業や商業に従事する視聴者には、日々の生活に役立つ知恵や自然との調和が重視されている。また、公務員や医師などの高学歴層にとっては、モンゴル文化の倫理観や思いやりを学ぶ機会として受け入れられ、教育的価値が高く評価されている。

(5) 次世代へのアプローチと課題

デジタルメディアの利用が進む中、ホーリン・ウリゲルも SNS や動画配信を通じて若年層に届けられる機会が増えているが、伝統的な形式での演奏を重視する視聴者も多い。デジタル化に伴い、伝統の軽視や簡略化への懸念も存在する。視聴者の多様なニーズに応えるためには、現代的なテーマの導入や多様な表現方法を模索しつつ、伝統の本質を損なわない工夫が求められる。

V 調査結果

1. 伝承方法の変化

ニューホールチは TikTok や WeChat などのソーシャルメディアを積極的に活用し、ホーリン・ウリゲルの発信方法に変化をもたらしている。視覚的な要素や現代的なテーマの導入により、特に若年層の関心を引き、従来の伝統を新たな形で再解釈している。一方、伝統的なホールチは、地域イベントや家庭内での口承を通じて伝承を行い、ホーリン・ウリゲルの原初的な形態を維持している。この対照的な手法は、伝承文化の適応と保存という二面性を象徴している。

2. 情報化社会の影響

情報化社会の進展により、ホーリン・ウリゲルは地域を超えて広範な視聴者に届けられるようになった。デジタルメディアの普及は、伝統文化の知名度向上に貢献する一方、伝承の形式や内容に新たな課題を生んでいる。例えば、デジタルプラットフォームでの短縮された演奏形式は、視聴者の利便性を高めるが、伝統的な長編叙事詩の完全性を損なう可能性がある。また、SNSを通じて伝承される内容が視覚やエンターテインメントに偏ることで、文化的・精神的な側面が軽視されるリスクも指摘されている。

3. ホーリン・ウリゲルの文化的意義

ホーリン・ウリゲルは、モンゴル族の文化的アイデンティティの象徴であり、個人や地域社会にとって重要な精神的支柱である。ニューホールチによる新たな試みは、若年層へのアプローチを可能にし、持続可能な形で伝承を実現している。一方で、伝統的なホールチは、ホーリン・ウリゲルの本質的価値を守る役割を担い、地域社会の文化的つながりを維持する要となっている。これら双方のアプローチが補完的に機能することで、伝統の維持と革新のバランスを図りながら、ホーリン・ウリゲルの文化的意義を継続的に発展させる可能性が見いだされる。

VI 伝統芸能の進化と情報化社会への適応

21世紀の中国では、グローバル化と経済発展により、内モンゴル東部地域の伝統文化、特に少数民族文化に大きな変化が生じている。王(2021)や王・黄(2021)によると、情報メディアの発展に伴い、伝統芸能への関心が減少しつつある。さらに、劉(2023)は、専門家の減少やニューメディア技術への不慣れが、少数民族文化の適応力を低下させていると指摘している。これにより、伝統文化の継承と保存はますます難しくなり、次世代への効果的な伝播方法の開発が重要な課題となっている。

1. モンゴル族のライフスタイルの変化

中国の経済発展と都市化により、内モンゴル東部のモンゴル族の生活様式が大きく変化している。都市化によって職業の多様化や生活水準の向上が進む一方で、ホーリン・ウリゲルのような伝統文化の継承が困難になっている。コミュニティの結びつきが弱まることで、ホーリン・ウリゲルの伝承者と視聴者の接触機会が減少しているが、一方でインターネットやソーシャルメディアを活用した新たな伝承の可能性も広がっている。国家政策の変化も、ホーリン・ウリゲルの伝承に影響を与えている。牧畜地域では、新しいガバナンスシステムの導入により、伝統文化の実践が制約を受けることがある。こうした変化に適応するためには、持続可能な伝承方法の模索が必要である。

2. ニューメディアとの融合

2023年のデータによると、中国国内のショートビデオユーザーは10.44億人に達しており、インターネット利用者全体の96.8%を占めている⁷⁾。このような新しいメディアの普及は、少数民族地域や農

7) 中央网信办 第52次《中国互联网络发展状况统计报告》(全文) http://www.cac.gov.cn/2023-08/29/c_1694965940144802.htm

村部にも大きな影響を与えており、特にモンゴル族を含む農村部の住民が、自らの文化や生活様式を広く発信するためのプラットフォームとなっている。

ホーリン・ウリゲルにおいても、ショートビデオやソーシャルメディアを通じた発信が活発になり、都市部の視聴者に対して田園風景やモンゴル族の生活文化を表現することで、郷愁や感情的なつながりを喚起している。孫(2022)は、伝統音楽とポピュラー音楽が融合し、ニューメディアを通じて「ウランバートルの夜」や「天路」といった楽曲が広く認知され、大衆化していることを指摘している。これにより、ホーリン・ウリゲルもまた、現代的なメディアフォーマットに適応し、伝統と現代の結びつきを強化することが求められている。

このような状況下、ホーリン・ウリゲルは、伝統芸能としてのアイデンティティを保ちながらも、ニューメディアを活用して進化を遂げる必要がある。伝統文化が現代社会で持続的な発展を遂げるためには、新しい表現手法や視聴者との接点を模索し、革新的なアプローチを採用することが不可欠である。

3. 自己革新と適応

ホーリン・ウリゲルは、現代の社会文化的変化に対応するため、自己革新を進めている。過去には、清朝期に漢民族との文化的交流が行われたように、現在の情報化社会においても、ホーリン・ウリゲルは伝統的要素を保持しながら、現代の視聴者に向けた新しい演出手法や表現を取り入れている。これにより、伝統芸能が変わりゆく時代に適応し、観客の多様なニーズに応える作品が生まれている。

また、ホルチン地区では、伝統的な単独演奏から複数の演者が協力する形式への変化が見られ、これにより音楽の表現力やパフォーマンスの幅が広がっている。視覚的な演出やダンサーとのコラボレーションも含めた複雑なステージ演技が、観客に新たな感動を与えている。

伝承者の育成についても課題が指摘されている。現在、年配の伝承者に依存している状況が続いており、文化の持続可能な継承にはリスクがある。伝統的なホーリン・ウリゲルを次世代に継承するためには、若い伝承者の育成が急務であり、地域の多様な流派を守り、発展させることが求められている。

4. 内モンゴル東部の言語状況

内モンゴル東部のモンゴル族は、漢語とモンゴル語を併用する中で、言語環境の変化を経験している。阿(2010)の研究によれば、漢語の使用が増加する一方で、純粋なモンゴル語が失われつつあると認識されており、これが文化的アイデンティティにも影響を与えている。また、双言語教育政策により、モンゴル族の子どもたちは小学校から漢語とモンゴル語の両方を学ぶことが義務付けられているが、モンゴル語の能力低下が問題視されている。

言語能力の低下は、ホーリン・ウリゲルの後継者育成にも影響を及ぼしており、伝統文化の継承に重大な課題をもたらしている。ホーリン・ウリゲルの伝統を維持するためには、モンゴル語教育を強化し、言語基盤を再構築することが急務である。政府や教育機関は、この問題に積極的に取り組み、モンゴル語の保護と普及を推進するための具体的な措置を講じる必要がある。

VII まとめ

21世紀のグローバル化と経済発展は、内モンゴル東部の社会環境に大きな変化をもたらし、特に伝統芸術であるホーリン・ウリゲルなどの少数民族文化にも大きな影響を与えている。本文から得られた結論は、現代化と都市化の進展が、伝統芸術の継承と発展に新たな課題と機会を生んでいるということである。都市化や経済発展により、モンゴル族のライフスタイルが多様化し、伝統文化の継承が難しくなっている一方、伝統と現代文化の融合によって新しい文化的表現が生まれ、伝統芸術の意義や価値観も変わりつつある。

また、TikTokなどのショートビデオといったニューメディアの普及は、伝統芸術に新たな可能性をもたらし、特に若い世代を含む幅広い視聴者に伝統文化を紹介するチャンスが増えている。伝統的な要素を保ちながらも、ニューメディアや新しい演出を取り入れることで、伝統芸術の魅力をより多くの人に伝え、強化することが可能になっている。

さらに、社会環境の変化はモンゴル語の使用や文化の継承にも深刻な影響を及ぼしており、特にホーリン・ウリゲルのような語り芸能の後継者育成が困難な状況にある。モンゴル語教育を強化し、文化的アイデンティティや伝統芸術の継承に対する意識を高めることが急務である。

以上のことから、伝統文化が現代社会で生き残り、発展していくためには、革新的な方法や戦略が必要であることがわかった。社会、文化、教育の各分野で積極的な取り組みを進め、伝統芸術の継承と革新を通じて、少数民族の文化遺産を次世代に伝えるための包括的なアプローチが求められる。

おわりに

筆者は中華人民共和国・内モンゴル自治区通遼市でモンゴル族の家庭に生まれ、中国語教育を受けて育った。親や親戚の世代がウリゲルに強い関心を持っていた一方、日常会話程度のモンゴル語しか理解できなかった筆者は、その文化的魅力を十分に感じ取ることができず、文化や伝承について深く理解する機会を得られなかった。日本への留学中で、自民族の文化的アイデンティティの維持について考えるうち、家庭環境がその維持において果たす役割の重要性を改めて認識するに至った。

修士課程に進学してからは、ホールチへの調査を行い、多くの協力を得ることができたが、経済的な理由で協力を得られない場合も少なくなく、次世代への伝承に対する課題や不安を強く感じた。本稿では、伝統芸能であるホーリン・ウリゲルに焦点を当て、現代社会や情報技術の進展にどのように適応しているのかについて考察した。ただし、特定の芸能に限定したため、より広範な文化的アイデンティティやメディア利用の全体的な変化については十分に論じることができなかった。外モンゴルにおいてもウリゲルに似た文芸が存在することを知り、今後はその若い世代に対する調査や比較研究を行う必要があると考えている。

今後の研究では、伝統芸能が現代社会においてどのように文化的アイデンティティを形成し、影響を与えているのかをさらに広い視点から探求することが求められる。デジタルメディアの利用、教育システム、経済的価値、モンゴル国のヨーチンなど、多角的な視点を取り入れた分析が必要である。また、具体的なケーススタディや実地調査を通じて、現代のモンゴル族コミュニティにおけるホーリ

ン・ウリゲルの役割や意義を詳細に明らかにしていきたい。

本文の遂行にあたり、多くのホールチから調査への協力をいただいたことに深く感謝する。また、指導を頂いた先生をはじめ、研究を支えてくださったすべての方々に心より感謝の意を表する。さらに、研究を支えてくださった神戸大学「異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト」にも、改めて深く感謝する。

参考文献・資料

〈日本語〉

- 阿拉騰巴特爾 (2010)「多言語社会における少数民族の変容ー現代中国のモンゴル族を中心にー」神戸大学大学院。
- 島村一平 (2011)『増殖するシャーマンーモンゴル・ブリアートのシャーマニズムとエスニシティ』春風社。
- F. ブリス (2000)「音楽とアイデンティティ」『カルチュラル・アイデンティティの諸問題』(柿沼敏江訳) 大村書店 189-221。
- 李連栄 (2005)「中国青海省チベット族の民族文化ー他民族との交流と融合ー」『愛知大学特集：地域と民族の生活文化』21(17)：75-89。
- モンゴル研究所 (2007)『Ⅷ 近現代内モンゴル東部の変容』雄山閣。
- 蒙古貞夫 (漢名：楊陽) (2021)「モンゴル民族の伝統芸能ーウリゲルの起源と発展に関する考察ー」『アジア教育文化ジャーナル』(3)：7-37。
- 蒙古貞夫 (漢名：楊陽) (2021)「モンゴル民族の伝統芸能ウリゲルの変容研究」東京学芸大学大学院。
- ナランピリゲ (2009)「モンゴル族における牧畜儀礼の一環としてのオボー祭祀ーオボー及びその祭祀とシャーマニズムとの関連性からー」神奈川大学大学院。
- スチント 著 / サランゴウ (2011) 訳「ホールチの類型とウリゲルの説唱伝統」『千葉大学 ユーラシア言語文化論集』(3)：77-94。

〈中国語〉

- 王迅 (1995). 中国东部蒙古族民间说唱艺术考略.《民族文学研究》,2: 99-104.
- 秦塔娜, 特塔日巴 (1999). 关于旧蒙古说书的起源及其他.《民族文学研究》,2: 35-37.
- 赵之恒 (2000). 清初内蒙古地区流民问题析论.《内蒙古师范大学报 (哲学社会科学版)》,6: 36-42.
- 萨仁格日勒 (2001). 蒙古史诗生成论. 中央民族大学出版社.
- 张士尊 (2003). 清代东北移民与社会变迁：1644-1911. 东北师范大学.
- 阎天灵 (2004). 论汉族移民影响下的近代蒙旗经济生活变迁.《内蒙古社会科学 (汉文版)》,25 (3): 18-22.
- 曹道巴特爾 (2005). 蒙汉历史接触与蒙古族语言文化变迁. 辽宁民族出版社.
- 珠颯 (2005). 清代内蒙古东三盟移民研究. 内蒙古大学.
- 朝克图, 赵玉华 (2007). 蒙古族非物质文化遗产“胡仁・乌力格尔”的载体胡尔奇研究——以“毛依罕杯”胡仁・乌力格爾大賽实况分析为例.《中央民族大学学报：哲学社会科学版》,2: 5.
- 杨玉成 (2007).《胡尔奇：科尔沁地方传统中的说唱艺人及其音乐》中国艺术研究院.
- 佟宝山 (2008). 东部蒙古藏传佛教寺院佑安寺考述.《辽宁工程技术大学学报：社会科学版》,9 (5): 1.
- 包金刚 (2008). 多才多艺的民间艺人——胡尔齐.《内蒙古师范大学学报：哲学社会科学版》,37 (4): 3.
- 谢秀武 (2008). 胡仁乌力格尔在科尔沁地区发展的原因.《赤峰学院学报》,29 (5): 59-61.
- 吴金凤 (2008). 论藏传佛教对辽宁省阜新蒙古贞地区的影响.《辽宁工程技术大学学报》,10 (6): 3.
- 韩星 (2018).《阜新蒙古族艺人杨铁龙说书研究》沈阳师范大学.

- 王芸璇, 陆尧选(2021). 乡村与青年: 自媒体短视频中的“IP”生产与“流量”变现——以理塘县“丁真”现象为例.《中国青年研究》, 90-97.
- 王蕾, 黄竹兰(2021). 新媒体环境下短视频对贵州少数民族文化传播的影响.《贵州民族研究》, 042(003): 147-151.
- 王怡丹(2021). 全媒体背景下少数民族村寨文化传播探析.《媒体融合新观察》, 4: 88-90.
- 滕驰(2021). 内蒙古牧区新型都市化背景下蒙古族生活方式的变迁.《云南民族大学学报》, 33(2): 58-6.
- 孙梦娇(2022). 新媒体下蒙古族流行音乐创作的新变化.《参花》, 1: 63-65.
- 刘萍(2023). 新媒体时代下的少数民族文化传播探讨.《中国民族博览》, 10: 72-74.

〈WEB 資料〉

- 中国非物质文化遗产网·中国非物质文化遗产数字博物馆(乌力格尔)
https://www.ihchina.cn/project_details/13656
- 中央网信办 第52次《中国互联网络发展状况统计报告》(全文)
http://www.cac.gov.cn/2023-08/29/c_1694965940144802.htm (2023/12 取得)

(はく こくちゅう)